

「昭和基地を訪ねる旅」が迷走

クラツーは販売中止、企画手配のコンドル「実施可」

ク ラブツーリズムは、3月にホームページ上などで募集していた「白人大陸南極 昭和基地を訪ねる旅」の発売を4月4日付で中止した。昭和基地の上部組織である国立極地研究所が、安全性の問題点を指摘したためだ。

ツアーは、南米方面の旅行手配を手がけるツアーオペレーターのコンドルトラベル・ジャパンが企画したもので、日本から南アフリカを経由するルート。旅程では航空機で訪問することになっていたが、昭和基地には専用の滑走路がない。約20km離れた場所に着陸ポイントを整備し、そこからヘリコプター移動が必要だが、極地研は認めていなかった。極地研の本吉洋一副所長は、「昭和基地は、

そもそも国の観測調査を目的にしている」と、観光の受け入れができない理由を説明した。

ツアーは今年12月に日本を出発する予定となっていたが、南極は夏季で着陸ポイントやその周辺の氷が薄くなる危険な時期だ。また、基地建物内の観光や周辺におけるペンギンなどの動物観察も謳われていたが、極地研はこれも許可していない。さらに、基地周辺でペンギンを見られることは少ないという。

クラツーはツアーを販売中止したが、コンドルトラベル・ジャパンの江木雅男代表取締役は「現在も手配できる」と自信を見せる。南極への航空運輸を手掛ける組織が着陸可能と判断していること



新聞報道のあった翌日の夜に掲載されたクラツーのツアー中止の告知

を根拠とするが、基地内観光や動物観察については具体的な言及を避けた。

南極ツアーは世界中で人気が高く、領土権を主張するチリ、アルゼンチンは観光の受け入れに積極的といわれる。南米経由のルートが一般的であるなか、南アフリカ経由は他社と差別化できる。だが、安全確保が最も優先されるべきで、旅行会社はより能動的な情報収集が必要だ。(倉田佳代子)

現地発着ツアーで外国人需要に照準

アランが新たな船出、訪日旅行事業を開始

現 地発着ツアーの予約・販売サイト「Alan1.net」を運営するアランが、グローバル展開を本格化する。04年に日本人海外旅行者をターゲットとしてサイトを立ち上げたが、今では会員数33万人超、年間送客数35万人超を数えるまでに成長。日本市場での基盤確立を機に、海外進出への一步を踏み出すことになった。

4月3日付で社名を「ベルトラ」に変更するとともに、外国語サイト「VELTRA」を立ち上げた。同サイトではまず、日本を渡航先とする外国人旅行者向けのサービス提供を開始。旅行会社の商品も取り扱うが、約1年前から旅館やタクシー会社、寺院など地元の観光関連事

業者、団体などに直接アプローチし、魅力的な観光素材の販売強化に力を注いできた。

日本人向けのサイトでは海外68カ国・189都市のツアーを幅広く取り扱っているが、外国語サイトについても訪日旅行にとどまる考えはなく、荒木篤実代表取締役社長は「将来は、Alan1.netと同じ規模にしていきたい」と意欲を示す。現在は英語のみで欧米からの訪日旅行者を中心とした利用を見込むが、今後、多言語化を進めていく。

現地での観光は、パッケージツアーにおけるオプションツアーとも位置づけられる。しかし、荒木代表は「本来、オプションではなく、旅行の目的その



京都の旅館が企画した商品を訪日外国人にも販売。旅行者とサプライヤーのマッチングに注力

もの」との考えから、自社サイトの集客力を活用し、世界各国の旅行者とさまざまなアクティビティーをつなぐマーケットプレイスを目指す。新社名は変化や希望を意味するラテン語を組み合わせて、「旅行のあり方を変えていきたい」(荒木代表)との思いを反映。今後、魅力的なツアーを商品化できれば、ビジネスの拡大とともに新たな市場の創造が期待できそうだ。(野川耕平)